

# THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや  
ちくさ  
WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ  
承認 1982年 8月24日  
例会日 火曜日 12:30  
例会場 愛知厚生年金会館  
事務局 〒464 千種区池下一丁目4番18号  
井上ビル4F D号  
Tel 763-5110  
会長 竹内真三

みんなにロータリーを —— みんなに奉仕を  
Share Rotary —— Serve People

1983-84年度RI会長 ウィリアムE. スケルトン

No.11 (1983~1984)

## 第55回例会 昭和58年9月13日(火)晴

### ◇“奉仕の理想”

#### ◇出席報告

会員 48名 出席 32名  
出席率 65.96%

#### ◇前回 9月6日(修正出席率)100%

#### make up

深見君(9/6港), 古川君(9/7和合), 浜口君(9/9港), 橋本君(9/8東南), 林君(9/9港), 河合君(9/9港), 小池君(9/10守山), 黒須君(9/10守山), 水野(賀)君(9/12空港), 成田君(9/8東南), 新美君(9/9港), 大口君(9/1瑞穂), 大谷君(9/8東南), 笹野君(9/7和合), 鈴木(猛)君(9/2港), 鶴飼君(9/8東南)

#### ◇ビジター紹介 7名

#### ◇誕生日祝福

久保田君(9/15), 笹野夫人(9/16)

#### ◇ニコボックス

小池君(本日卓話させていただきます), 古川君(本日3分間スピーチさせていただきます), 久保田君(誕生日祝), 笹野君(夫人誕生日祝)

#### ◇古川君3分間スピーチ

今年の夏, 当ヘラルド映画配給の「南極物語」がおかげさまで大ヒット中です。多くの人々の涙を誘う感銘深い犬の物語りであり, 氷原の雄大な景色という夏向きの映画でもあってか, 13日間で1億の記録を達成し, まだまだ伸びている映画です。しかしながらこの映画は委託を受け配給したもので, 裏をお話すると, 当社の利益はごくわずかという厳しい一面も打ち明けておきます。

#### ◇三輪幹事報告

1. 1984年用ロータリーカレンダー(500円), ロータリーダイアリー(1,000円)を御希望の方は事務局までお申し出下さい。
2. 第266地区大阪大手前ロータリークラブの認証状伝達式のご案内が来ておりますので, 参加希望の方は事務局までお申し出下

さい。

3. 次回例会終了後, クラブアセンブリーを行います。理事役員, 各委員長の方々は2F梅の間にお集り下さい。(クラブ計画書を必ず持参下さい。)

#### ◇親睦活動委員会報告(大口君)

今年度の年末クリスマス家族会は, 12月14日(水), 午後6時よりナゴヤキャッスル(青雲の間)にて行なわれる予定です。昨年は東RCとの合同でしたが, 今年は単独で開催されますので会費は多少お高くなりますが皆様の参加をお待ちします。なお本日お配りした出欠予定表を事務局まで御提出下さい。

#### ◇竹内会長挨拶

先夜のNHK.TV.をみてましたら、武原はん、の独演会をやっていました。私芸事は一切駄目で又観賞眼など全くありませんし歌舞伎なども無関心、たまにおつき合いで劇場に出かける程度であります。御覧になった方もあったでしょうが、はん女、の舞う『雪』には私、参りました。何に参ったのか自身解らぬのですが、それは『踊り』ではありませんでした。幽幻というかまるで、はん女、が雪の精にでもなって舞っているようでした。『芸の力』という言葉がありますが正にこの芸の力に私は打たれたのでした。

地方の一中節、蔵江節が又々舞にマッチして素晴らしいものでした。同い年(明治36年生)の私の母親なども感無量の面持ちで觀賞しておりました。

徳島のブリキ職人の子が京都で芸子となり山村流を習い、後に地唄舞の家元として大成するまでの辛酸と苦労は今やりのおしん、そのものであったとの事です。幸い活躍の場が京都であったため、谷崎潤一郎とか平櫛田中とか、その他批評の宇野信夫他の眼識見識共一流の人士に育成されて今日に至った

と述懐して居られました。是非はん女の舞う『雪』を御覧下さい。動きを極端に殺し、不動かざともはん女がそこに傘さして立っているだけで絵であり、又その静止の中にすべての動作が内蔵されていて「静にして動」といった恰も沢庵の『不動智』の世界を舞を通してみる様な素晴らしいものでした。

芸に行き詰まると専ら般若心経に帰依し又木曾御岳に登山されるそうです。TVの中で御岳行者が唱える「六根清浄お山繁栄」を繰返し唱えられましたが全く無邪気で晴朗なもので、見世物的なTVのショーではちぐはぐな感じさえ致しました。吉田蓑助の人形とはん女との道行も亦素晴らしく、地唄舞「はん女」の舞の根底にあるもの、それは人間の『業』に対する慚悔と畏れではないか。それが私をかくも感動させるのではないかと感じ「能の世界に近い舞」さりとして「能ではない舞」を表出するはん女の世界を讃嘆するばかりです。彼女の長命を願って終りとします。

#### ◇講演

#### “住宅あれこれ”

会員 小池 宗 君



衣、食、住は人間生活の三大要素といわれていますが、その中の“住”について現在どのような市場動向となっているのかふれてみたいと思います。

わが国の住宅供給はここ3年くらい若干の減少傾向を辿っていますがほぼ110万戸の数字を示しています。10年前の47～48年頃の180～190万戸の時代と比較しますとその減少は大変大きなものといえます。これはその時々々の国家政策、経済環境、住宅需要人口の動向等が多大な影響を与えることに他なりません。

それでは住宅の供給はどこまで逓減して行くのかという疑問が生じます。たしかに今現在この傾向が反転して供給増加に転ずる理由づけは少なく、在庫状況から減少気味に推移すると考えるのが妥当かも知れません。

全国の既存住宅は凡そ3,300万戸と推定されておりますが新しく住替える期間を30年とすれば110万戸が必要となって来ます。このサイクル期間の考え方（例えばこの期間を40年とすれば80万戸余ということになります）次第で必要とされる供給戸数が変わってきま

すが日本人の根強い持家指向と住まいに対するニーズの多様化から単なる耐用年数で割切ること正当とはいえません。更に53年度住宅統計による建築年代別戸数によれば35年以前に建築された住宅は1,050万戸、その後の10年間で1,020万戸となっており、住宅経年割合によっても左右されることになります。ことほどさように今後必要とされる供給戸数の推計は難しいものですがここ2～3年は1,100～1,200万戸程度と考えられます。

以上は住宅全体の動向をみたものですがこれを形態別（持家、貸家、分譲、社宅）に分析しますと次のようになります。

各年度毎に凹凸はありますが年間供給量のシェアのトレンドをみてみますと持家と分譲は増高をしており、貸家と社宅は逓減を辿っております。57年度では持家50%、分譲20%、貸家と社宅で30%となっております。因みに47年当時両者で50%近いシェアであった貸家と社宅が近時30%にダウンしたこともわが国の持家指向の根強さを物語っているといえましょう。

分譲住宅は51～55年のピーク時（年間30万戸超）以降建売住宅の減少とマンションの在庫調整から供給縮少を辿ってきましたが、建売住宅のまき返しとマンション在庫調整の進展から59年以降回復基調に移るものと期待されます。

住宅供給好転の材料は、住宅需要者人口の動態にもみることができましよう。住宅購買適令期は35～44才といえ、この時期に急速に持家比率が高まっています。所謂団塊の時代といわれる22～26年頃の出生者（年間220～270万人の出生数）が60年前後から適令期に入ってくることになり、住宅需要の自然増につながるわけです。ただこの限りでは潜在需要に留まるわけでこの需要を如何に顕在化させるかは住宅諸政策はもとより供給者サイドの絶えざる創意工夫が必要不可欠とされましよう。

#### ◇例会変更のお知らせ

9月26日（月）名古屋空港R C

夜間例会の為、午後6時より  
中日パレスにて。

#### ◇次回例会（9月20日）

講演 “絵馬”

伊勢絵馬師 安田 識人 氏

（紹介者 菅原君）

#### ◇次々回例会（9月27日）

講演 “生保セールスマンの実態”

会員 手島 茂明 君